

1 調査日 令和元年11月6日（水）～8日（金）

2 調査の概要

11月6日（水）

(1) 公益財団法人屋久島環境文化財団（鹿児島県熊毛郡屋久島町）

白谷雲水峡（鹿児島県熊毛郡屋久島町）

調査内容：環境保全について

鹿児島県では、屋久島の自然環境の保全を図るとともに自然と人との共生する新しい地域づくりをめざすために屋久島環境文化村構想を策定している。

同財団は、この屋久島環境文化村構想を推進する中心的な組織として、平成5年3月に設立され、環境学習や環境保全活動の推進・支援を通じ、屋久島の豊かな自然とのふれあいの中で人間の活動と環境とのかかわりあいや自然の恵について学習する拠点を形成し、自然環境の保全に寄与することを目的としている。

本県における環境保全や環境学習の取り組みの参考とするため同財団における環境保全の取り組みについて調査を行った。



(2) 鹿児島県議会（鹿児島県鹿児島市）

調査内容：池田湖の全層循環について

池田湖は、薩摩半島南東部に位置する九州最大の湖であり、年に1回湖水が冬季に鉛直循環するが、暖冬の年には部分循環しか起こらない。

池田湖では、1987年から全層循環が25年間起こらず、底層において無酸素状態の継続と、底泥からの窒素・リンの溶出・蓄積による底層水質の悪化が顕著化していたが、2011年、2012年、2018年に全層循環が確認された。

今冬、琵琶湖において1979年の観測開始から初めて全層循環が確認できず、底層にすむ生物への影響などが懸念されていることから、今後の参考とするため、池田湖の全層循環の状況について調査を行った。



11月7日（木）

（3）かごしま環境未来館（鹿児島県鹿児島市）

調査内容：環境保全活動に係る取り組みについて

同館は、市民や事業者が環境について関心や理解を深め、日常生活や事業活動において、自発的に環境保全活動を実施するとともに、活動の輪を広げていくことを支援するため、平成20年10月に開館した施設である。

同館では、参加体験型の環境学習講座を実施したり、環境学習資料の展示、環境保全活動に主体的に取り組む人材育成などを行っている。

本県における環境保全活動の参考とするため同館における取り組みについて調査を行った。



（4）有限会社新福青果（宮崎県都城市）

調査内容：スマート農業の取り組みについて

同社は、ゴボウや里芋など根菜類を生産し、農林水産省の「スマート農業実証プロジェクト」に参加しており、ロボットトラクタや自動操舵補助機能トラクタを導入したり、ドローンを活用した生育状態の確認などを行っている。

また、タブレットへのデータ入力作業の見直しをはじめ、農業現場に丸投げしないデータ管理システムを確立した。

本県においても、スマート農業を推進するため、しがのスマート農業推進事業を実施しており、今後の参考とするため同社の取り組みについて調査を行った。



11月8日（金）

（5）宮崎中央家畜市場（宮崎県宮崎市）

調査内容：成牛セリ市について

J A 宮崎中央 宮崎繁殖センター（宮崎県宮崎市）

調査内容：キャトルセンターの取り組みについて

J A 宮崎中央では、子牛の出荷頭数を確保するため、2015年に宮崎繁殖センターを稼働させた。農家の高齢化や、担い手が減少する中、宮崎牛の頭数を確保し、家畜市場を活性化するため、同施設では、生産した子牛の飼育から競り売りまでを一括して行っており、農家における繁殖管理労力の軽減や牛舎空きスペースを活用した増頭を推進している。

近年、子牛価格の高騰が続いているため、本県においても、安定確保に向けた地域内一貫生産体制を強化し、酪農家の収益向上を目的として、平成30年7月からキャトル・ステーションが稼働しており、今後の参考とするため同センターの取り組みについて調査を行った。

